

俳句の世界に浸るインスタレーション

今回は句具が事前に募集した数々の俳句の中から、一般投票により選ばれた10句が展示されました。俳句には春夏秋冬の他に「新年」の季語が存在します。「初夢」「獅子舞」「三が日」など、新年の季語を取り入れた、新春らしい句が並びます。展示の特徴は各作品に、その「解説」ではなく「鑑賞文」が添えられている点です。作者の意図ではなく、複数の読み手の感想を通して作品を味わうことで、自由な解釈を促しています。言葉の意味、季語から浮かび上がる情景、五・七・五のリズム。読み手の数だけ世界が広がります。



図書館で行われた本の関連展示

ワークショップで、俳句を詠む体験を



ワークショップは、初心者でも気軽に参加できるように好きな季語を選ぶことで俳句が完成する、穴埋め式の季語パズルワークシートを使って行われました。講師の後藤麻衣子さんから基本的な俳句の詠み方についての説明を受け、俳句歳時記から新年の季語を選びます。「俳句は敷居が高いと思われがちですが、とても自由な定型詩だと思えます。正解を探すのではなく、言葉の響きや組み合わせが気に入った季語を、自分の感性で当てはめてみる。参加者は真剣な表情で句を詠む楽しさを体験しました。

MEDICOS COLUMN

岐阜提灯×イサム・ノグチ ～空間を彩る“光の彫刻”～

2023年12月27日から2024年2月4日にメディコス2階の市立中央図書館で、シビックプライドライブラリー企画展示「岐阜で生まれた世界プロダクト AKARI展」が開催されました。岐阜市が誇る伝統的工芸品「岐阜提灯」。日用品だった岐阜提灯は、1887年の東海道線開通以降に販路をを広げ、知名度とともに装飾的価値も高めていきました。海外向けの製品も次々と開発される中、1951年に来日した世界的な彫刻家 イサム・ノグチは、岐阜提灯の制作工程を見学したことをきっかけに、光の彫刻「AKARI」シリーズを開発。今も約150種類の「AKARI」が、伝統技術を受け継ぐ職人により丹精込めて制作されています。

会場には多数の「AKARI」が並び、その優しい光に引き立てられた図書館の一角は、幻想的な空間へと様変わり。「AKARI」の誕生秘話やイサム・ノグチと岐阜の繋がりを紐解く資料も取り揃えられ、岐阜提灯の歴史を辿るとともに、イサム・ノグチとの出会いで“光の彫刻”へと昇華した岐阜提灯の魅力が体感できる展示となりました。



(協力:NPO法人ORGAN、株式会社オゼキ)

みんなの森 ぎふメディアコスモス
〒500-8076 岐阜市司町40-5
TEL.058-285-4101
https://g-mediacosmos.jp/

「ぎふメディアコスモス事業」「岐阜市立中央図書館」「市民活動交流センター」「多文化交流プラザ」の4つの組織・機能からなる複合文化施設です。

季刊 メディコス文化道 VOL.12 (2024年3月発行)
発行 / みんなの森 ぎふメディアコスモス
編集・デザイン / さかだちブックス(株式会社リトルクリエイティブセンター)
表紙イラスト / スケッチジャーナリスト 大角真子



【特集】 俳句のインスタレーションとワークショップが開催されました！
トークイベント「みんなのひとりと」の総集編が開催されました！

【総集編】 メディコス大事典・メディコス閉館からの歩み



特集 01 俳句のインスタレーションとワークショップが開催されました！

2024年1月5日～11日に、メディコス1階のドキドキテラスで俳句展「ことほぎのことばの森に棲むひかり」が開催されました。



メディコスでお正月イベントの一つとして開催された「ことほぎのことばの森に棲むひかり～鑑賞文からひもとく俳句～」。7日間にわたり、“新年の季語”を使った俳句作品とその鑑賞文が空間いっぱい展示され、ドキドキテラスはまさに言葉で溢れる“俳句の森”に。初日の1月5日には、本展示を企画した、俳句と暮らすための道具ブランド「句具」の後藤麻衣子さんを講師に迎え、俳句を詠む体験ができるワークショップも行われました。

やわらかな自然光が降り注ぐ、真っ白な空間全体を活かした大胆な展示に、訪れた人はゆっくりと歩きながら、作品を見上げ、味わい深い俳句の世界を堪能していました。また、岐阜市立中央図書館では関連企画として、俳句や言葉にまつわる書籍を集めた展示が同時開催されました。

特集 02

トークイベント「みんなのひとりと」の総集編が開催されました！

2024年2月16日、岐阜市立中央図書館のシビックプライドライブラリーで“岐阜で楽しく生きる術”をテーマにトークイベントが開催されました。



2022年からメディコスの自主企画として続けられてきた“岐阜で楽しく豊かに生きる”ためのトークイベント「みんなのひとりと」。アートや教育、まちづくりなど、さまざまな分野で活躍するゲストを迎え、これまでに7回にわたってトークが繰り広げられてきました。

今回の開催は、岐阜をこよなく愛する2人をゲストに迎えた「総集編」。トークの聞き手、吉成信夫総合プロデューサーが「みんなのひとりと」の総集編にふさわしいのは、この2人しか

いない」と、迷わずゲストに指名したのが、NPO法人ORGAN理事長の蒲勇介さんと、カンダまちおこし株式会社代表取締役社長の田代達生さんです。生まれ育った岐阜で、まさに“楽しく豊かに生きる”ことを、仕事でもプライベートでも実践している蒲さんと田代さん。会場いっぱい集まった25名の参加者が見守るなか、旧知の仲である2人が吉成総合プロデューサーとともに、岐阜の過去、現在、そして未来を語りました。

岐阜を愛し、岐阜に根ざす2人の“岐阜で楽しく生きる術”

トークは田代さんの経済的側面から見た柳ヶ瀬繁栄の考察からスタート。柳ヶ瀬商店街が日本屈指の繁華街として栄えた背景を紐解きつつ、自身の柳ヶ瀬での思い出なども振り返りました。続いて、蒲さんは大学時代から長年注力してきた長良川流域の文化に関する取り組みや、その中で自身の岐阜に対する心持ちの変化などを話しました。

後半は吉成総合プロデューサーも加わり、活発なトークセッションを展開。メディコスと岐阜のまちの約10年間を振り返りました。終盤に「これからのメディコスに期待することは何か」という問いがゲストの2人に投げかけられると、「市民のチャレンジの起点であり、小さな経営の伴走をしてくれるような存在であってほしい」と蒲さん。田代さんは「メディコス編集講座のような“学び直し”や“探究”の機会があるといいですね」と述べ、和やかな雰囲気なかでトークが締めくくられました。



- これまでの「みんなのひとりと」
- 第1回 みんなのアート空間へ 中島法見 氏(美術家/岐阜女子大学文化創造学部 講師)
 - 第2回 みんなのシビックプライドプレスへ 中村佳史 氏(株式会社HUNコンサルティング 代表取締役 / NPO法人進出出版 理事)
 - 第3回 みんなの俳句へ 後藤麻衣子 氏(句具 代表 / コピーライター/個人)
 - 第4回 みんなの大学へ 井上博成 氏(一般社団法人飛騨高山大学設立委員会 代表理事)
 - 第5回 子どもの居場所+アート? 権田花子 氏(一般社団法人ヒトノ本 代表理事)
 - 第6回 未来を生きる人づくり 松岡慎也 氏(株式会社デンブルス 代表取締役)
 - 第7回 やりたいを実現するつながらり オゼキカネコ 氏(かかみがはら暮らし委員会コミュニティ部門代表委員)
- 各回のレポートはこちら >>>

CITIZEN ACTIVITIES FILE

みんなの森の市民活動 04

メディコス1階の市民活動交流センターでは、「自分たちのまちをもっとよくなりたい」という思いで活動する市民団体をサポートしています。団体の皆さんは、館内施設の利用やイベント開催など、メディコスを拠点に多様な市民活動を行っています。

メディコスクラブ

市民が自身の活動の輪を広げ、交流する場として、誰でも参加可能な月に1度の情報交換会を中心に活動する「メディコスクラブ」。メディコスや周辺で行われているさまざまな市民活動を育む場となっています。

ABOUT 1 メディコスクラブって?

メディコスの開館2年前から、市民参加型の施設運営を目指してメディコスの運営に関心を持つ市民が集まったことをきっかけに活動がスタートしました。この有志の会が、開館と同時に「メディコスクラブ」と名付けられ、以来、緩やかに活動を続けています。現在はおもに毎月第2木曜に定期開催している情報交換会「2木630」での交流を通して、岐阜市内外から集まったさまざまな世代の参加者が、お互いの活動を後押ししたり、活動をコラボレーションさせた企画を行ったりしています。



PICK UP 2 メディコスクラブのここに注目!

これまで、メディコスクラブのメンバーのアイデアから多数の企画が生まれました。2017年の「メディコス駐車場チョークアート」では、参加者が駐車場の白線をキャンパスに見立て、自分の思いや夢をチョークで描きました。2019年のメディコスまつり「フム・ドキ・ワイワイ」の企画として実施した「だんだん段ボールタウン」では、子どもたちが段ボールいっぱいに、まちの理想像を描きました。どちらも「こんなことをやってみてみたい!」という純粋な市民の思いから実現したイベントです。



COMMENT

メディコスクラブは市民が主体的に活動する“大人の部活動”のような場です。自分の活動を広げたい人が活動をPRするのはもちろん大歓迎です。いろいろな人とフラットな関係性でつながることで思わぬ発見があります。今後に関心の近い同士が協力したり、新しいことにチャレンジしたりするきっかけになるといいですね。



代表 市来 恭子さん

メディアコスモス大事典

GIFU MEDIA COSMOS
ENCYCLOPEDIA

みんなの森 ぎふメディアコスモス

【メディアコス】めいでいこす
2015年7月18日に開館した岐阜市の複合文化施設。みんなの森ぎふメディアコスモスの愛称。市立中央図書館、市民活動交流センター、多文化交流プラザ、ホール、ギャラリーなどから構成され、さまざまな人々の学びと憩いの場として親しまれている。また、岐阜市の歴史や、シビックプライドに溢れたひと・モノ・場所の情報アーカイブし、発信する情報拠点の役割も担う。



【せせらぎの並木テニスコ】

みんなの森を象徴する美しい並木道。カッパとヒトバツグなどが植えられた並木道の間には、小径やせせらぎがあり、のんびりと散策する人々の姿も。

建築・デザイン

【グロブ】ぐろぶ
2階階の書庫の天井から吊り下げられた11個の溜まりのかわ。自然光を柔らかく取り込み、読書に最適な明るさを保ち、かさの曲線に沿って自然な風の流れを生む効果がある。

【波打つ天井】

2階の木製格子屋根のこと。周囲の金華山をはじめとする山々が連なる景観と呼吸するデザインとして設計され、県産材の東濃のきを使っ、最大1日1300人の大工により3カ月かけて造られた。

地域との連携

【柳ヶ瀬エリア】やなぎせえりあ
岐阜市中心的な街地であり、戦後から繁華街として発展してきた歴史のある柳ヶ瀬商店街を中心としたエリア。近年は若者が集うマーケットが開催されたり、近くのセントラルパーク金公園が整備されたりと、人がゆったりと過ごせるエリアへと進化している。「岐阜市柳ヶ瀬子育て支援施設ツナゴエ」で市立中央図書館の司書らによる読み聞かせを



【伊奈波エリア】いなばえりあ

メディアコスからほど近い、伊奈波神社や岐阜善光寺の周辺エリア。地域の歴史を大切にしながら、近年は定期的なマーケットが開かれたり、次々に新しいスポットや飲食店が誕生したりと、注目を集めている。2016年にお店などに本棚を設置し、みんなと共有する「ぎふまちライブラリー」がスタートするなど、メディアコスのつながりも深まってきた。2024年3月にはワークショップを通してメディアコスと伊奈波エリアをつなぐ、まち歩きMAPが完成



シビックプライド

【ぎふ古今】

岐阜市の過去・現在・未来や、人の情報を集積するシンボルエリアとして、2022年3月に館内に開設されたシビックプライドの愛称。2つのドームにある端末で、まち歩きの情報や古い地図や写真、市民から集まった写真「思い出の一枚」などを見ることが出来る。



【珍ちゃん人】

岐阜市で活動する子どもロボットチーム「岐阜珍ちゃん」の愛称。ユニークな人形を指し、WEBサイト「シビックプライドプレイス」で魅力的な珍ちゃん人形を紹介。「ぎふ古今」では、岐阜市人カードも配布。

【おとなの夜学】

おとなの夜学

【夜景】

日が沈むと図書館のカーテンが開き、柔らかな照明に照らされたグロブと波打つ天井が浮かび上がる夜のメディアコスの美しい夜景。



【みんなの森フォント】

メディアコスのために独自に開発されたフォント。ロゴをはじめ、ギャラリーやスタジオの看板の考「第二」の文字、図書館の書籍の分類表示などに使われている。



図書館・本

【わんこカート・にゃんこカート】わんこカート・にゃんこカート
アウトリーチのツールとして独自に創った図書館の移動式ブックカート。わんこは「にゃんこ」にゃんこは「にゃんこ」の愛称で親しまれている。親子のグループに出動するほか「本のお宝帳」と連動して図書館を飛び出し、小学校での読み聞かせにも出かける。



サードプレイス

【屋根のついた公園】

開館当初から「サードプレイス」自宅、学校、職場とは別に存在する居心地の良い場所であることを目指してきたメディアコス。いつも誰でも自由に出入りができ、みんながどきどき空気を共有しているようなほどよい距離感があり、時には素敵な出会いも生まれる公園のような場所でありたいという思いを、屋根のついた公園と表現している。

【子どもの声は未来の声】

岐阜市立図書館が掲げる理念。図書館が本を通じて子どもたちの豊かな未来につながる道を応援し、子どもたちの育ちを末長く見守る場所であるために子どもたちが少しざわわわいいていて微笑ましく見守り、お互いの気持ちを持ち寄り、居場所であることを大切にしている。

【心の叫びを聞け！YA交流掲示板】

2階階図書館のYA中高生エリアにある掲示板。中高生からのお便りに司書たちが「モア」を交えつつ、正面から向き合っ答えている。やり取りはすべて2000字を超え、随時掲示が変わるお便りからは、今を生きている中高生のナイーブな内面垣間見える。恋バチ多し。

みんなの広場カオカオ

【みんなの広場カオカオ】

メディアコスと岐阜市役所の間にある広場。ランチタイムにキッチンカーが出店したり、週末にさまざまなマルシェが開催されたりと活用され、にぎわいが生まれている。



キーパーソン

【伊東豊雄】

世界的建築家。多様な人が自由に過せる公園のような空間として「メディアコ」を設計。

【吉成信夫】

岐阜市立図書館初の公衆館長に就任後、メディアコス総合ロケータとして活躍。



みんなの森
GIFU MEDIA COSMOS

【日比野克彦】

岐阜市出身のアーテリスト。東京藝術大学学長。開館前からのメディアコス応援団長。



メディアコス開館からの歩み

GIFU MEDIA COSMOS
CHRONOLOGY

- 2015 「みんなの森 ぎふメディアコスモス」開館
日比野克彦さんプロデュース「みんなのアート」開催
てにておラジオ開局 市民によるみんなのラジオが生まれた！
中国・杭州図書館と交流協定調印 子どもたちから2000通の応募
わんこカート愛称「さらら」に決定
ぼくのわたしのショートショート発表会スタート
テニスコイルミナード点灯 「言葉は生きる武器」と朝井リョウさん
- 2016 来館者数100万人突破
多文化交流フェスタinメディアコス ハロー、ニイハオ
小さな司書のラジオ局開局
伊東さんと語ろう。みんなの森、図書館のこと
メディアコスクラブ発足 世界的建築家と子ども司書がコラボ
ぎふライブラリークラブ発足 メディアコで人がつながる
ぎふまちライブラリー誕生
- 2017 児童専用読書スペース愛称「ころん」と「ごろん」に決定
メディアコス駐車場チョークアート 子どもだけのトクベツなばしょ
- 2018 にゃんこカート「にゃん吉」始動 おはなし会でみんなに会いたいじゃ
日比野克彦さんプロデュース「みんなで作ろう長良川」開催
図書館に川舟型読書スペース出現 舟なのに読書スペース！
メディアコスウォールチョークアート初開催
- 2019 図書館オリジナルバッグとマグカップ販売開始
共読本棚「ぶっくらば」登場 どこにでも移動できる！
来館者数500万人突破 みんな来てくれてありがとう！
大和市・塩尻市と「図書館の連携・協力に関する同盟」を締結
おとなの夜学ブックレット販売開始 知らなかった岐阜を知る
- 2020 公式YouTubeチャンネル配信スタート
シビックプライドライブラリー登場 岐阜で豊かに生きるヒントが満載
図書館オリジナルブックマーク販売開始 デザインは人気絵本作家の高島純さん
まちライブラリー@メディアコス始動
シビックプライド講座開催 「ぶっくらば」が1階へ。みんなの本棚に！
- 2021 電子図書館スタート
「季刊 メディアコス文化道」創刊 片手におさまるメディアコス全館の広報メディア
メディアコス編集講座開講 岐阜の魅力伝える情報発信の担い手へ！
メディアコスハープガーデン 講座開講 岐阜の過去～未来へとつながる情報集積エリア
- 2022 ぎふ古今（シビックプライドプレイス）開設
アートイベント「みんなの森の住人たち」開催
ライブラリー・オブ・ザ・イヤー 2022大賞受賞
メディアコスは屋根のついた公園です
- 2023 ティーンエイジのためのHIP HOP講座開講
来館者アンケートリニューアル みんな、メディアコスのイメージを教えて！
市民制作ZINE「ぎふここん」発行スタート メディアコス編集講座の共創がカタチに！
メディアコス公式インスタグラム開設
- 2024 メディアラボ登場 館内と広場をつなぐ新しいシンボルスペース
来館者数1000万人達成へ
- 2025 開館10周年へ



「伊東さんと語ろう。」の様子



ウォールチョークアート



まちライブラリー@メディアコス



ぎふここん



メディアラボの広場での活用イメージ

【ハープガーデン】

はふがーでん

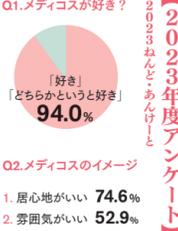
メディアコスの正面入り口の西側にある花壇で、ハープガーデン講座の受講生が市民が選んだハーブなどが植えられている。肥料にはスタバックスのコーヒークスを活用したほかしを使用。

【みんなの森の住人たち】

みんなの森の住人たち

【みんなの森の住人たち】

みんなの森の住人たち



【2023年度アンケート】
2023年度アンケート

開館初年度に年間来館者100万人を突破、開館9周年を迎える2022年度には1000万人を達成する見込み。

市民活動

【市民活動団体】

岐阜市の市民活動支援ブースが館内にあり、メディアコスを活動拠点とする団体も多い。300を超える登録団体は館内のつくるスタジオが使用でき、チラシやポスターの作成などクリエイティブな活動もできる。

【ワイワイサークル】

1階にあるサークル型のオープンスペース。多文化交流・サザの外国人スタッフとも企画する国際交流、多文化共生に関わるイベントなどを定期的に開催している。

市民活動

【フムドキワイワイ】

岐阜市の市民活動登録団体の発表と交流の場として毎年開催されるイベント。館内各所で40以上の市民活動団体がステージでの催しやワークショップなどを行う。

【ボランティア】

市民の手でメディアコスのにぎわいを創出するボランティア活動が活発に行われている。「メディアコスクラブ」では、市民・全館イベントへの協力や団体間の情報交換・交流の場である「毎月2木集まる情報交換会」を開いている。また、ぎふライブラリークラブは図書館を舞台に「本・ひと・まち」をつなぐ活動を企画・運営している。

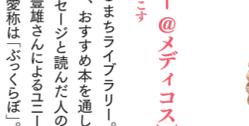
みんなの声

【来館者数】

来館者数

開館初年度に年間来館者100万人を突破、開館9周年を迎える2022年度には1000万人を達成する見込み。

【ころん・ごろん】ころん・ごろん
2017年に登場した児童専用読書スペース。設計は伊東豊雄さん。秘密基地のように自分だけの空間で本の世界に没頭できる。



【ぼくのわたしのショートショート発表会】
ぼくのわたしのショートショートの発表会
中高生による2000字程度の短編小説を公募し、選考作品をメディアコスのホールで本人が朗読する企画。当日は直木賞作家の朝井リョウさんが真珠にコメントを返してくれる。過去の出場者から小説家デビューした子も。



※「まちライブラリー」とは、まちの中に本棚を設置し、本を持ち寄り交換しながら「ミニシアター」のように、まちの小さな図書館のこと。現在は全国でこの取り組みが広がっている。